

「原発と人権」 メディア分科会 これまでの歩み

第1回集会 2012年4月7日～8日

- ・東電記者会見に出席して 隠蔽体質許すメディア 日隅 一雄
- ・新聞は耳目を塞ぐ道具か 塩谷 喜雄
- ・原発報道とテレビ 小出 五郎

政・財・官・学・報・のペンタゴン

第2回集会 2014年4月5日～6日

- ・原子力防災とテレビ 倉沢 治雄
- ・県民健康管理調査について 日野 行介
- ・東京の目、福島的心 井上 能行

県民健康調査の報道をめぐって論争

第3回集会 2016年3月19日～20日

- ・「福島は危ない」イメージを恐れる 小泉 篤史
- ・「棄民」から「飢民」そして「起民」へ 藍原 寛子
- ・「安全神話」は「科学」でなく「宗教」へ 本田 雅和

「報道の中立性」から「被害者に側に立つ報道」へ

第4回集会 2018年7月28～29日

- ・原発報道の失敗 チェルノブイリ、福島と人間の未来 林 勝彦
- ・原発を拒否したベトナム、他国への輸出は？ 中村 悟郎
- ・脱原発以後のドイツ政治 放射能廃棄物問題を中心に 小野 一

「原発政策の転換」 「watchdog」機能と建設的提言を

第5回集会 オンライン開催 2021年10月9日

- ・ジャーナリズムは原発報道で責任を果たしてきたか 瀬川 至朗
- ・コメント 桶田 敦
- ・被爆問題 個人線量計データ検証と生活環境を考える 島 明美
- ・吉田調書問題とは 添田 孝史
- ・原発作業員問題 片山 夏子
- ・「見えない化」されている被害と責任 満田 夏花
- ・メディアがキャリーした「原発のウソ」 加藤 就一

被爆問題と生活者の立場 問題意識

▼原発60年と原発をめぐる議論 問題提起に代えて

原発は導入当初から、議論すべき課題が多かった。しかし、結局、「結論」に至らず、議論されたまま、ずるずると今日に至った。当初から、話題になったトピックを、その一部だけ列挙する。日本人はこれをどう考えたのか、どうしたらいいのだろうか？

- ・ 原発は「原子力平和利用」の議論で始まった。 A toms for Peace の提起
- ・ 原子力問題についての学術会議の議論 最終的には「札束でひっぱたいた…」
- ・ 「原子力カーバラ色の夢」 全国で展開された「博覧会」など
- ・ 地元漁協などへの工作、自治体への交付金など
- ・ 反対運動で最初から言われてきた「トイレなきマンションを造れるのか？」
- ・ 永久機関を夢見た？ 核燃料サイクル…
- ・ 新聞社の中での議論 「イエス・バット」…
- ・ 問題にならなかった？ スリーマイル島 「チャイナ・シンдрローム」
ソ連の体制が強調された、チェルノブイリ事故
- ・ そして、「3. 1 1 事故」 「差し止め判決」もある中で…
- ・ 「安全神話」への反省はされたのか
- ・ 果たされていなかった津波対策「3.11 大津波対策を邪魔した男たち」（島崎邦彦）
- ・ 「大本営発表」と言われた東電レク
- ・ 東電の行動、政府の行動、一体どうだったのか？ 吉田調書
- ・ そもそも原因がわからない。地震による破壊か、津波か？
- ・ 健康被害をどう考えるか 子どものがん、甲状腺障害
- ・ 4つの事故調報告の意味 『原発事故報告書』の真実とウソ」（塩谷喜雄）
- ・ 原発抑制に踏み切ろうとした民主党政権、ストップさせた米国のアドバイス
- ・ ドイツの決定、他の諸国の動き
- ・ 「アンダーコントロール」のウソで切り抜けた安倍内閣
- ・ 廃炉作業をどうするか？
- ・ 被災者の人権 数字ではない人生、2代、3代…
- ・ 街の再生と、住民の生活再建
- ・ 「除染」ってなんだ？ やれるところやれないところ
- ・ 「復興対策」と住民の立場 復興の利権？
- ・ 「世界一安全な原発」は、結局売れなかった…
- ・ 汚染水問題、汚染度問題
- ・ 中間処理施設、最終処分地
- ・ 「国に責任はない」最高裁判決の問題点
- ・ 刑事裁判をどう考えるか

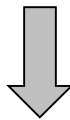
- ・ 「メディアの公正」とは何なのか
- ・ メディアがジャーナリズムであるためには？



運営委員の丸山さん



「以前、打ち上げで、『福島原発事故に記者生命をささげる』と宣言してたよね。なぜなのかをしゃべってくれ」



そんなこと覚えてたのか... ((;´▽`))

と思いつつ、何かの提起になればと参りました

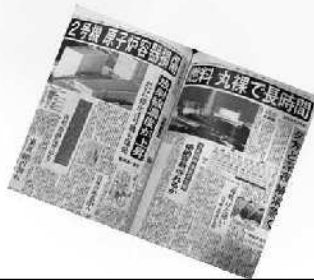
なぜ？

こんな **歴史的な大事件** に遭遇できる？
(もう2度と発生させてはなりません)



・当然見届けたい。しかも、現在進行形

「3.11」の衝撃 頭の深い所に刻まれた苦み



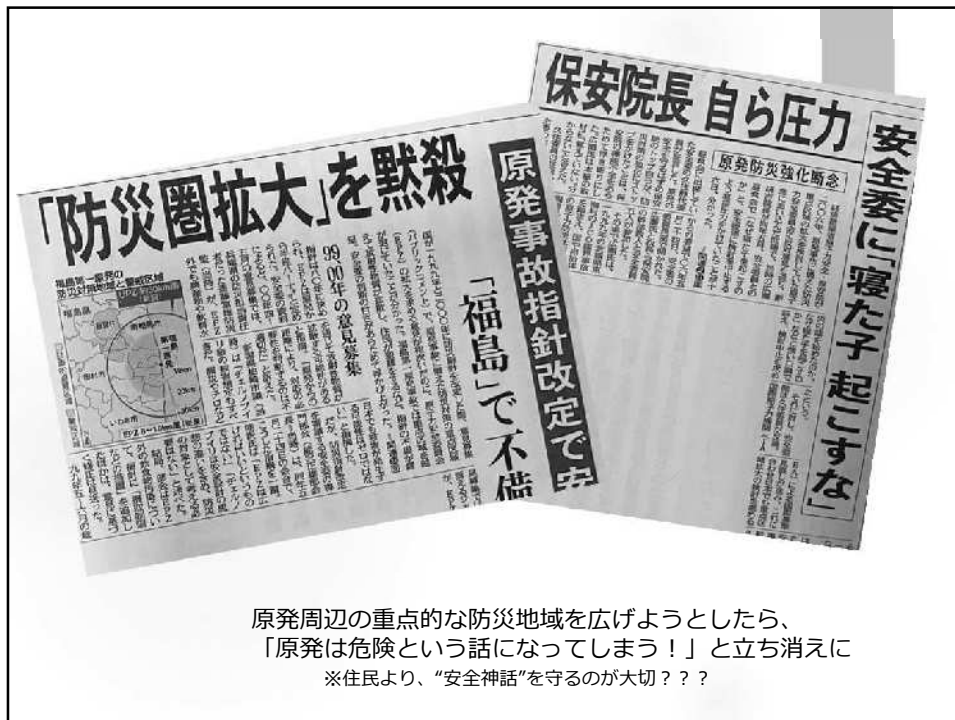
- ・同じことを続けていていいはずない
- ・いったん、これまでの「常識」は疑わねば
- ・発表頼りじゃなく、自らかせがねば
- ・純粋な「中立」なんてない
- ・考える材料を提供するのがメディアの務め
ただしフェアであるのは最低限

ちよいと掘ってみれば.....



いろいろ調べていくとー

- ・コスト優先で福島第一原発は建設
- ・「世界1安全」どころかむしろ遅れ
- ・事故後の発表にも疑義



- ・ 原発の「本当の」コスト解明
- ・ 2011年12月、早々とドジョウ総理が「事故収束宣言」
 ※「オンサイトは継続中ですが、オフサイトは収束」と宣言
 カタカナでけむに巻こうとする典型例



原発マネー

立地地域の反対押さえ込みのため交付金やら寄付金
その給付事業では天下り法人が“滞れてで粟”
メディアが“変な”報道していないか、税金でチェック



底なし沼の様相・・・

で、力を入れたこと

原発事故が、ほかの災害と異なることは？

**= 見えない、においもない
音もない**

ならば、少しでも“見えるように”

農作物や海産物は心配無用 **されど、野山のものは要注意（毎年調査）**

福島県の農作物や魚

野生の食用キノコ

- ・フィールドワークは楽しい
- ・じっちゃん、ばっちゃんと山頂でお弁当 「コシアブラ食えればな」
= 事故で何を失ったのかを実感。単なるレジャーでなく、本当の富
- ・首都圏の避難者読者
「まんだ汚れてるって話でも、ふるさとのごと伝えてくれてありがと」
= どうして、途中で放り出せましょうか??

独自の線量マップ

双葉、大熊（2022.11）

確かに除染で大幅に線量は低減
でも、解除したのになぜこんなスポット？

自分の認識の甘さにショック

一方、
 楢葉町などは真っ白け
 (0.2μSv/hなし)
 = 日常に戻りつつある

自らの脚で事実を確認 = **正確な状況把握、“相場観”養える**
 被災者の方々にも情報提供（安心情報含め）できる

メディア分科会なので、あえて「メディア」を考える



本紙記事に対し、ネット「ジャーナリスト」らが批判記事
「処理水が危ないと書いたのは間違いだ」
「政府・東電の言う通り書いてないから誤報だ」
「韓国や中国メディアが引用。国益害した」

無視しました。
2面では、汚染水処理に尽力してきたことは高く評価。
問題は、騙そうとするから信用されないこと、と明記

根拠を政府など権力に求める傾向 ⇨ きちんと取材を尽くしていれば
「国益」の前では「事実」は不要の傾向 怖いものはなし

・この“実演”みて少なからぬメディアが

「メーター振れません。この目で安全性を
確認しました」的な報道

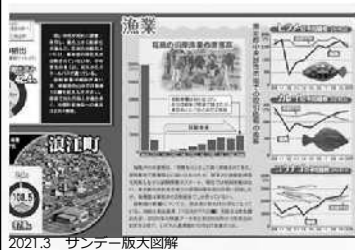
= 意図しないとしても誤報

原因

- ・日ごろから線量計ももたず
原発被災地を取材
※風評? 不要な時はしまっておけばいいだけ
- ・ガンマ線とベータ線の区別も知らず
原発事故関連を報道

メディア分科会なので、あえて「メディア」を考える

線量、放射能にふれると「風評加害」なの?



東京市場で「常磐もの」復活の兆しとの話

- ・福島の水産物 検出すらわずか
- ・自分でも測っているのに、国のデータにも納得
= 自信をもって書ける
= 疑う読者にも、的確に説明可
- ・まれに基準超の魚
= 私の目には「モニタリングが機能」と映る

汚染水を処理した後の いわゆる「処理水」放出

もう少し「言葉」を大切にしましょうよ

- ▶ すぐ「処理水」と報道されますが、
東電自らが「処理途上水」と呼んでいるもの忘れてない？

ALPS処理水等の放射能濃度

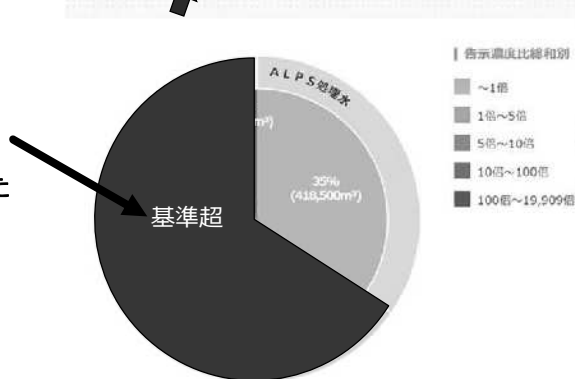
一度はALPS処理されていても、

さすがの東電も「処理水」
と呼ぶのは気が引けた

それなのに、メディアが

「1Fにたまり続ける処理水」

の書き出し（読み始め）はおかしくない？



東京電力「処理水ポータル」より

弊社の場合

- ・ 初出は「汚染水を処理した後の水」が原則
- ・ 2回目からは、放出基準満たす水については「処理水」
基準を満たさないものは、「処理したが汚染が残る水」など



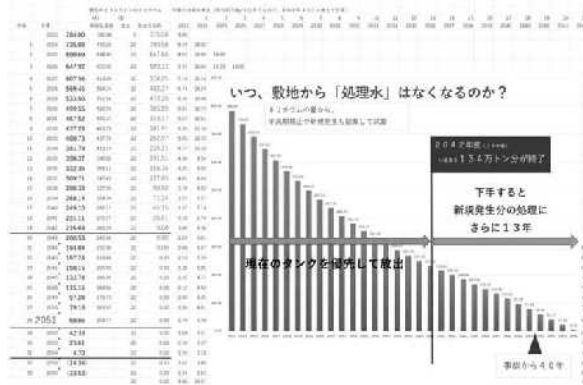
明日掲載の紙面 (いいのかな?)

東電の定義からしても、「処理水」と呼べるのは、印のみ
印の中には基準の1万4000倍の立派な「汚染水」も

= 「処理水」放出の賛否にかかわらず、分別して伝えるのは義務かと

「30年かけて放出」(東電)は本当?

私もシミュレーションしてみました



本当でした。

いまのタンク内134万トンが19年で終わるが、
新規の汚染水発生処理が残る。
発生抑制に努めないと、事故から50年の2051年を超えるかも

さらっと「30年かけて...」
と言いますが

3.11から12年半
「もう」？「まだ」？



東電提供



私の故郷にある伊勢神宮
20年ごとに建て替え
(式年遷宮)

- ・ 檜鉋による仕上げなど技術伝承
- ・ 地域の伝統継承
(2013年7月のおきひき、私も参加)



神宮司庁 YouTubeより



30年後、放出の決定に関与した人のうち、
現役は何人いる？ メディアも同様。

長期化は確実 メディアとして

自分自身への
メモ

- ▶ 汚染が残る「7割」の確実な再びの処理

(これは必要最低限。緩みがないよう監視)

- ▶ 「清浄」VS「核汚染水」 おろかな分断の解消

- ・ 放出が「褒められたものではない」ことだけは確実
- ・ 「知識を与えれば理解されて解決」式の発想は成功する??
(除本さんのいう「欠如モデル」)

時折、この手の
報道も

- ▶ 道は「海洋放出」だけか？ 併用で早期解決

(例：構内の地盤改良や新造建屋でセメントを練る水としては?)
(容積効率は1/4といいますが)

30年は
長すぎる

- ▶ トリチウム除去技術の探求 もちろん環境影響の検証も

(大量処理ができるなら、放出から転換も)

デブリ取り出して
「イノベーション起き
る！」というなら、
こちらをお願いします

☑ 裁判所（司法）は市民にとって「最後の砦」。

（例）原発の停止／国の賠償責任／海洋放出差し止め（9月8日に提訴予定）など

☑ 憲法第76条「すべて裁判官は、その良心に従い独立してその職権を行い、この憲法及び法律にのみ拘束される」。しかし、原発は国策。裁判官には「無難な判決」への誘惑がある。

☑ 司法は、内閣（行政）と国会（立法）と並ぶ三権のひとつ。メディアは裁判報道だけでなく、司法のあり方をきちんと問うてきただろうか。

☑ 変わる司法……3・11後、元裁判官たちが慣例を破り、判決の裏側を語り始めたことはメディアにとって好機。閉ざされていた司法の扉の奥を垣間見ることができる。

☑ 変わらぬ司法……どうしても国の責任は認めない最高裁。その構造的問題に切り込むべき。公開資料をしつこくチェックするほか、情報公開制度を活用するなど、使える手法はまだまだあるはず。一方で、世論が原発容認に傾くなかで司法の変化は期待しにくい。世論をどうやって再起動させるかという課題と連動している。

※参考図書

磯村健太郎・山口栄二『原発に挑んだ裁判官』（朝日文庫／2019）

後藤秀典『東京電力の変節 最高裁・司法エリートとの癒着と原発被災者攻撃』

（旬報社／2023）

原発訴訟の一例

○原告勝訴 ×原告敗訴

伊方原発1号機 (設置許可取り消し) 地× 高× 最×

1992年 最高裁「専門家の高度の知見によって国の規制基準をつくっているのだから、よほど見逃すことのできない欠陥や見落としがない限り、司法は行政に判断をゆだねてよい」という趣旨＝いわゆる伊方判決。科学の素人の裁判官は個々の危険性を判断せずにする。

もんじゅ (設置許可無効確認) 地× 高○ 最×

2003年 名古屋高裁金沢支部で、初の住民勝訴の判決

志賀原発2号機 (運転差し止め) 地○ 高× 最×

2006年 金沢地裁が住民勝訴の判決

.....2011年3月11日.....

大飯原発3,4号機 (運転差し止め) 地○ 高× (上告せず)

2014年 福井地裁が、3・11後としては初の住民勝訴の判決

2018年 名古屋高裁金沢支部が原判決を取り消し、住民の訴えを棄却

「危険性は社会通念上、無視しうる程度」 ← ごまかすためのマジックワード

避難者訴訟 (事故を起こした国の責任追及／損害賠償請求)

2022年 最高裁は、4件の訴訟の上告審で国の責任を認めず(3人が多数意見、1人は反対意見)。

→ 後続する各地の訴訟(約30件)への影響大